

**実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る調査研究
実施方法等**

1. 実践校について

実践校名	京都府立京都すばる高等学校（きょうとふりつきょうとすばるこうとうがっこう）		
学科名		生徒数	学級数
会計科		3 5 3	9

2. 調査研究の対象

第1学年 会計科 118名（3クラス）

第2学年 会計科 ファイナンスコース 38名（1クラス）

第3学年 会計科 ファイナンスコース 41名（1クラス）及び会計科の希望生徒

3. 調査研究の実施経過

(1) 税に関する取組（1年生）

◇租税教室（クラス毎）

10月19日（月）1組38名・2組40名・20日（火）3組40名

◇税に関するグループワーク（クラス毎）

11月4日（水）1組38名・2組40名・3組40名

◇新しい税を考える発表会（学年全体）

2月5日（金）

(2) 仕事調べ学習に関する取組（1年生）

◇日程の都合により、外部講師授業については未実施

(3) 地域金融機関との系統的産学連携授業（2年生）

◇講義・実習とグループワーク

7月14日（火）3組38名

◇課題解決の提案Ⅰと外部講師授業

10月7日（水）3組38名

◇課題解決の提案Ⅱとグループワーク

12月15日（火）3組38名

(4) ファイナンシャルプランニング授業（2年生）

◇外部講師授業

1月20日（水）3組38名

◇ライフプランニング実習

2月3日（水）3組38名

- ◇ライフプラン発表会
2月24日(水) 3組38名
- (5) 地域金融機関との系統的産学連携授業 (3年生)
 - ◇課題解決の提案Ⅲとグループワーク
6月24日(水) 3組41名
 - ◇課題解決の提案Ⅳ
1月20日(水) 3組41名
- (6) 大学、投資系金融機関との連携授業 (3年生)
 - ◇外部講師授業
8月28日(金) 3組41名
- (7) 税理士事務所インターンシップ (3年生希望者)
 - ◇税理士事務所インターンシップ
7月21日(火)・22日(水) 4名
7月22日(水)・23日(木) 4名
8月4日(火)・5日(水) 3名
 - ◇税理士事務所インターンシップ報告会
10月14日(水)11名
- (8) ファイナンシャルプランニング技能士検定取得に向けた取組(3年生)
 - ◇金融知力検定受験(ファイナンスコース全員受験)
7月1日(水)検定試験41名受検
 - ◇ファイナンシャルプランニング技能士検定受験(課題研究FP分野受講者受検)
9月13日(日)検定試験7名受検
1月24日(日)検定試験2名受検
- (9) 先進校視察
 - ◇高知市立高知商業高等学校
11月18日(水)教諭3名参加

4. 調査研究の実施体制

【校内体制】

(実施における役割)	(担当者職氏名)
会計科統括、渉外、産学連携	教諭 新開 正規
カリキュラム・教材開発・実践	教諭 北川 博士
金融経済教育調査・研究、情報機器関連	教諭 小寺 晶見

【外部連携機関等】

京都信用金庫
 ソニー生命保険株式会社
 近畿税理士会伏見支部
 伏見税務署
 大阪商業大学総合経営学部

5. 教育委員会等として取り組んだ内容

- (1) 子どもと社会を結ぶまなびづくり協議会『結（ゆい）ネットKYOTO』（京都府教育委員会設置）において社会の形成に参画していく資質や能力を育成するため、学校への出前授業を支援した。
- (2) 「法やルールに関する教育」プロジェクトを実施した。この取組は、規律ある行いを実践する教育推進事業において「人や社会とのつながり、自分らしく生きること」をテーマに共生社会を形成、維持・発展を図るために必要な見方・考え方を習得し、より良い社会の実現に向けて主体的に行動できる子どもの育成を図ることをねらいとしている。具体的には、府立高校全校実施に向けて、カリキュラムの策定と指導案と授業事例を掲載した冊子「法やルールに関する教育」を製作した。
- (3) 実践校が行う研究分野の専門的知識と経験を持った指導主事が連携、指導助言等の支援を行い、調査研究の充実を図った。
- (4) 「高校生地域とつながる事業」を実施し、府立高校生のボランティア活動の支援を行った。通学路の見守り活動、地域清掃活動、災害被災者への支援などの様々なボランティア活動や「海の京都」イベントなどでの観光ガイド等が実施され、地域に貢献するとともに、地域とつながりながら社会に貢献する態度の育成を図った。
- (5) 成果を他の府立高校にも普及させる方策を研究するとともに、全府立高等学校の代表者が参加する京都府教育課程研究協議会（平成28年8月実施）において当該研究実践指定校の研究成果発表を行うことを計画している。

6. 調査研究の評価等

学習プログラムの実施にあたり、多くの外部機関に連携授業を依頼し、学習・課題設定・調査研究・提案発表、そして、振り返りのサイクルで課題解決型学習を計画した。加えて授業内では、グループワークを増やし、1対40ではなく、少人数で話を聞いたり、インタビューを活用するなど、実社会との接点を少しでも確かなものとし実感できるように進めてきた。

さらに、昨年度のまとめで挙げた以下の5点を、改善の視点として取り組んだ。

- 課題①・・・提案から実現を目指す、実践的で実学的な要素を取り入れた高いリアリティを持つ学習プログラムへの発展。
- 課題②・・・連携先の本来業務の多忙期と、授業展開上の最適時期との調整。
- 課題③・・・学校と外部連携機関が連携した評価組織の立ち上げ。
- 課題④・・・過回と比較できる生徒の評価資料の作成。
- 課題⑤・・・学習プログラムの普及活動。本学習プログラムの他校・他校種への情報発信活動の実施。

課題①に対して、新たな取組として、大学、投資系金融機関との連携授業を通した、社会貢献型金融の活用（クラウドファンディングの企画、実現）を学習プログラムに追加した。本年度は、情報収集並びに企画段階にとどまっており、次年度以降も継続して取り組む。

課題②については例年課題となっており、本年度、仕事調べ学習の外部講師授業、大学・投資系金融機関との連携授業などで、日程調整の都合で予定のプログラムの全ては実施できない状況であった。しかし、他の取組も含め、事前の打ち合わせから、内容の精選及び日程の変更まで柔軟に対応した結果、実施を増やすことができた。

課題③に対して、評価組織としての立ち上げはできなかったが、連携先から本取組に対する理解を得ることができたので、代わりに個別での評価会議を年度末までに実施する。

課題④に対して、調査研究期間を通して、評価項目を学年に対応した項目に絞り作成した。

課題⑤に対して、普及・広報活動として、関西商業教育研究会調査研究委員会及び京都府商業教育研究会研修会での発表並びに、社会教育分野でのライフプラン授業の紹介を行った。今後は、本学習プログラムの教材・資料の冊子を作成し、関係機関等への配布を予定している。

学習プログラムの実施については、課題②で挙げたように、実施できなかったものや、次年度への持ち越しとなったものも一部あったが、概ね計画通りに進めることができた。これらは、関係機関の全面的な協力・支援によるものである。また、校内で実施する学習プログラムについても、時間割変更など関係教科のみならず他教科を含めた学校全体の教員等の理解と支援に支えられている。

今後も本学習プログラムの継続的な実施や充実を目指し、より連携を密にして計画段階からの相互理解を深めていくことが大切となる。

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る調査研究 学習プログラム

実践校名：京都府立京都すばる高等学校（会計科）

概要

- 金融経済の学習活動を通じて、お金の役割や仕組・経済活動におけるお金の動き・人生におけるお金とのかかわり・働く目的や生き方を学ぶことで、自立した社会人として、積極的に社会参画できる資質と能力を育む課題解決型学習プログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

- お金の大切さや重要性を理解し、金融経済に関する幅広い知識を有する人材の育成
- 社会経済について深く考える力や課題解決に向けて主体的に行動できる力の育成
- 金融経済の動きを探究し、新たな生活・暮らしを提案できる力の育成

学習プログラムの主な内容

(1) 税に関する取組（1年生118名）

◇租税教室

外部講師（近畿税理士会伏見支部 税理士）による税金の意義、役割の講義及び税の公平性を考えるグループワーク

◇税に関するグループワーク

伏見税務署職員（4名）とのグループワーク（日本の財政健全化に向けた提案と税に関わる仕事を知る）

◇新しい税を考える発表会

税務署からの課題、「新しい税金を考える」について探究活動を行い、成果発表会を実施

(2) 仕事調べ学習に関する取組（1年生118名）

◇仕事調べ学習

興味のある仕事（職業）について、調べた結果をクラスで発表

(3) 地域金融機関との系統的産学連携授業（2年生38名）

◇講義・実習とグループワーク

金融機関の基礎知識の講義と業務体験実習、若手職員とのグループワーク（課題についてのアドバイス、仕事についてのインタビュー）

◇課題解決の提案Ⅰと外部講師授業

地元信用金庫からの課題「もう一度行きたくなる金融機関を提案せよ」についての提案と職員とのグループワーク（提案についてのアドバイスとブラッシュアップ）、地域金融機関の役割についての講義

◇課題解決の提案Ⅱとグループワーク

地元信用金庫からの課題、「地域金融機関として京都経済活性化戦略を提案せよ」についての提案と職員とのグループワーク（提案についてのアドバイスと京都が抱える課題と京都が持つ資源）

(4) ファイナンシャルプランニング授業（2年生38名）

◇外部講師授業

現代社会におけるファイナンシャルプランナーの必要性と重要性を学ぶ。

◇ライフプランニング実習

生命保険会社との連携授業（ライフプランニング実習とライフプランナーとしての仕事、やりがいの講義、インタビュー形式のグループワーク）

◇ライフプラン発表会

「10年後の私」について発表

(5) 地域金融機関との系統的産学連携授業（3年生41名）

◇課題解決の提案Ⅲとグループワーク

地元信用金庫からの課題「新たな金融商品を提案せよ」についての提案と職員とのグループワーク（提案についてのアドバイスとブラッシュアップ）

◇課題解決の提案Ⅳ

地元信用金庫からの卒業課題「京都経済を活性化させるような起業をせよ」について提案及び融資担当の立場から信用金庫による判定

(6) 大学、投資系金融機関との連携授業（3年生41名）

◇外部講師授業

大学、投資金融機関との連携授業（金融のより実践的活用の講義及びクラウドファンディングの企画、実現）

(7) 税理士事務所インターンシップ（3年生希望者11名）

◇税理士事務所インターンシップ

業務体験（実際のコンサルティング業務に同行しクライアントとの相談会などにも参加）

◇税理士事務所インターンシップ報告会

インターンシップ先5事務所担当者との実施報告と意見交換

(8) ファイナンシャルプランニング技能士検定取得にむけた取組（3年生11名）

◇金融知力検定受験（ファイナンスコース全員受験）

◇ファイナンシャルプランニング技能士検定受験（課題研究FP分野受講者受験）

学習プログラムの成果の概要

(1) 税に関する取組＜1年生＞

消費税の軽減税率導入の賛否や10%への引き上げなど、生徒にとって身近に感じることができる材料を基に、税を学び、考える活動を通して、日本の財政状況や経済の話題に目を向けさせることと、納税が私たち国民の大切な義務であることを認識させ、社会の課題を自らが社会の一員として主体的にとらえる力を養うことができた。

1年生での学習プログラムとして、学習、課題設定、調査研究、提案発表の課題解決型学習の手順を、税金という身近な課題を通して、動機付けも図りながら学ばせる

ことができた。

(2) 仕事調べ学習に関する取組<1年生>

1年生を対象としたプログラムとして、仕事に興味・関心を持たせることで、自らの将来の道筋（ライフプラン）を意識させることができた。日常の授業の中にクラス内での発表を取り入れることで、自分の調べた結果をまとめ、整理する力に繋がるとともに、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力の重要性を実感させることもできた。

(3) 地域金融機関との系統的産学連携授業<2年生>

金融・経済の知識を習得するだけでなく、地元地域金融機関との系統的産学連携授業として地域の課題解決型プログラムに取り組ませ、金融機関の役割に目を向けながら、地元「京都」の社会的課題の解決策を提案・発表させることで、それらの課題を社会の一員として自らが主体的に捉える力を養うことができた。さらに、課題の解決といった結論を求めるだけではなく、「地域活性化」の定義を様々な観点から考察させることで、地域の理想的な将来像を創造していく視点を獲得させることができた。

また、グループワークを繰り返すことで、リーダーシップの醸成や、それぞれが作業の役割分担を的確に行うことができるようになるなど、生徒の中で、協働や組織として取り組むことの意義などが理解されることに繋がった。

(4) ファイナンシャルプランニング授業<2年生>

2年生3学期での学習プログラムであるライフプランニング実習では、自分自身の将来像を生活者の視点で考えさせることができたと同時に、ファイナンシャルプランニングをビジネスの視点で捉え、将来の自分の職業像として描くことに繋げさせることができた。さらに、金融や社会保障などを学ばせることで社会を支える人材としての能力を高めさせることができた。

将来の設計図を考える取組を通して、自分自身の過去、現在、未来と向き合わせたり、自分が知る私、他者（保護者や教員、友人）から見た私など、様々な角度から自分自身を認識させたりすることで、自己有用感の獲得に繋げることができた。さらに、それらの取組の中で、社会参画の意識も高めさせることができた。また、発表などを通して、コミュニケーション能力など社会で求められる力の重要性について認識を深めさせることができた。

(5) 地域金融機関との系統的産学連携授業<3年生>

課題解決型学習として、金融商品の開発や起業の提案に取り組ませる中で、社会起業家の存在やその取組を学び、ビジネスとしての視点を踏まえながら、社会が抱える課題に向き合うことができた。さらに知識の習得や情報の収集だけでなく、自らが行動する立場に立って物事を考える力を養うことに繋げることができた。

(6) 大学、投資系金融機関との連携授業<3年生>

現代社会における社会貢献型金融の意義目的を学ばせ、クラウドファンディングの企画及び実現という、より実践的・実学的な学習に取り組ませることができた。残念ながら情報収集と企画案の検討までしか進めることができなかったが、実現の難しさを体験することで、社会貢献の実践に向けた意識の高揚に繋げることができた。

(7) 税理士事務所インターンシップ<3年生>

簿記会計のプロフェッショナルの仕事に接する機会を設けることで、これまでの学びの筋道を再確認させるとともに、具体的な目標設定として位置づけさせることができた。また、仕事現場に直接立ち会うことで、「働く」ことが社会的責任を果たすことや、利益を上げていくことにも繋がることを学び、社会の一員としての意識を持たせることができた。

(8) ファイナンシャルプランニング技能士検定取得に向けた取組＜３年生＞

３年生でのプログラムとして、これまでの金融・経済の学びの成果の確認と、将来の職業像としてのファイナンシャルプランナーや金融に関わる仕事への直接的な知識習得に繋げることができた。さらに、検定取得によって、より上位級取得への意識が高まり、将来の職業像の明確化にも繋げることができた。